

「東日本大震災」対策 news NO.46

2011年5月27日(金)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

原発は中止し、エネルギー政策の転換をめざそう

コープかごしま労組 世界最大級の川内原発3号機増設中止を

コープかごしま労組は、川内原発の3号機の増設中止を求める陳情書のとりくみを分会に呼びかけています。建設が計画されている川内原発3号機は世界的にも最大級の原発といわれています。

東京電力福島第1原子力発電所の大事故を受け、県民の生命と安全を守るために伊藤祐一郎鹿児島県知事に対し、①川内原発3号機の増設への同意を撤回すること。②1号機2号機を総点検し防災対策を強化することを求める署名内容となっています。5月末には回収し6月には県知事に申し入れをおこなう予定です。

東海地連パート部会 浜岡原発永久停止・廃炉を求め署名行動を実施

東海地連パート部会は、地連パート部会交流会の初日(5月22日)の会議終了後、「浜岡原発永久停止・廃炉を求め署名」活動を行いました。日中は雨模様でしたが、夕方から雨が上がり、幸いでした。

休日の夕方でも人通りもあり、地元浜岡原発に対する関心は高く、参加者分も含め113筆が集まりました。「署名用紙とお知らせ」を印刷したチラシを挟み込んだ生協労連のティッシュの配布も行いましたが、あっという間に終わってしまいました。多くの仲間と行動するって力強い!!

みやぎ生協 心温まる光景に学校部職員一同癒されています

学校部本部から心温まる報告です。

「5月11日 岩切中学校の生徒会「生徒による故郷復興プロジェクト」のみなさんが岩切の学校部本部へプランター5つを届けにきてくれました。(玄関に4つ設置してあります。)生徒さんが創意工夫して「自分たちでできることから」と取り組んでくれました。素晴らしいですね。時々、岩切中学校の生徒さん(ちょボラ隊)が水やりに来てくれます。学校本部、業務課、中央支所の職員一同、心が癒されます。子ども達のためにもがんばるぞー!」



(みやぎ生協：専務通信 2011年度第9号 2011年5月24日より)

5月21日 宮城県災対連:東日本大震災共同支援センターが「何でも相談会」を実施

仙台市若林区六郷中学校校庭で「なんでも相談会」が5月21日（土）11時から午後2時まで行われました。朝方の雨が心配になった宮城県災対連東日本大震災共同支援センターの鈴木代表は、朝早くから会場にかけつけました。始まるころには雨が上がり、相談日和?となりました。会場隣の小学校は運動会でしたが、中学校体育館や武道館に避難している方たち、学校近隣に居る方たちがかけつけました。



六張の大きなテントには、農民連が山形の芋煮を再現 800 食、セントラルキッチンが牛丼、五目御飯、フルーツポンチを 300 食、用意。何でも相談では弁護士や生活と健康を守る会、民商、県労連労働相談員、民医連の医師や看護師が血圧測定や歯科検診、医療相談を行いました。おいしい水や綿あめなど振る舞いもありました。全国から寄せられた物資もありました。山形県労連からは車で新鮮な野菜などが会場に届けられました。全国から頂いた物資はブルーシート 5 枚に所狭しと並び、当日のスタッフがお世話をしました。

六郷地域は海岸にも近く、津波の被害は家屋も水田も根こそぎ奪いました。避難生活でご苦労している皆さんのお手伝いを少しでもと前日の宣伝カーやチラシ配布でお知らせも行いました。「暮らしのこと、法律的なこと、解雇・賃金・職場のこと、健康・医療のこと、事業・経営問題、なんでもありです。専門スタッフが対応しますので安心して相談してください」と呼びかけました。

運動会などが終わってみなさんが寄って相談やトン汁、牛丼などを食べていました。物資では、避難は自宅でしているというお母さんは、旦那さんのオムツが欲しいと寄っていきました。「避難所では不自由な人は居られないので、被害のあった自宅で何とか介護をしています」と大きな袋いっぱいにして喜んでいました。でも先を考えるととても不安ともっていました。

(宮城県災対連 東日本大震災共同支援センターニュース NO.10 より)

広島県労連のボランティア支援に参加して 生協ひろしま労組中央執行 三浦さん

5月22日から広島県労連が呼びかけたボランティア支援活動に参加した生協ひろしま労組の中央執行委員の三浦さんの報告です。支援に入ったところは宮城県石巻市です。

午前中は依頼者の床下と敷地のヘドロ・瓦礫撤去。良い天候で醜態した下水?廃棄物でなかなかの臭い。依頼者の息子さんの沖縄での結婚式の写真はかろうじて引っかかっていたとのこと。屋根まであった瓦礫は5月6日、7日の重機を持ってきたボランティアが家まで入れる通路や周りを撤去してくれたとのこと。敷地のヘドロの中から貯金通帳を山本さんを見つけ、今日も胸キュン。依頼者の敷地内で遺体は見つからなかったが、面している陸橋の麓に多くの自動車が渋滞で津波に襲われ、多数の死者が出たとのこと。依頼者のご夫婦は、海に近い4階建ての学校に避難して無事だったとのこと。生きていて良かったと、しみじみ言われて、ジーンときた。今は仙台のアパートに避難中とのことでした。



(広島合同ニュース第366号より)